

心の育ちをつなぐ保幼小連携・接続 (伏見板橋小学校と近隣の就学前施設)

「保幼小連携・接続～心の育ちについて語り合おう～」という演題で京都大学大学院教授大倉得史先生の講演を聴き、「自身の授業や保育を振り返り、子どもへのかかわり方について」幼保小の先生方で協議しました。

大倉先生の講演より



■力の発達の基礎をなす「心の育ち」

「集団行動できるように協調性や決まりを守る力を」「人との話がきちんと聞ける力を」と思ってしまうと、子どもに何をさせるか、どのように教えるかという発想になりがちである。教育・保育要領に示された資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿である幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(以下10の姿)は、結果であり、10の姿が実現される過程は様々。より重要なのは「自分でやることに喜びを覚えているか」「一緒に活動を伸びやかに楽しんでいるか」といった心のありよう、心の動き。資質・能力も10の姿も主体性を育む実践の中で自然に身につくもの。

■主体性とは何か～養護的働きと教育的働き～

「自分の思いをもって自分らしく生きたい」という「私は私」の側面と「周囲の人と共に生きたい」という「私は私たち」の側面、両面の心をしっかり備えて、そこに自分なりの折り合いをつけていけるような人間に育てることが保育の一番の目標。子どもを一人の主体として受け止めるとは子どもの気持ちを受け止めるという養護的な働きと保育者の思いを伝え、子どもを誘い、導くという教育的な働きが必要。

■主体性の発展が力を育てる

主体性は子どもの育ちと共に様々な側面が生まれ、絡み合いながらより豊かに複雑に発展していく。そして、モノへの興味、不思議さ、仕組みや性質の理解、規範意識などの力へとつながる。授業でも①子どもの心のありようをよく知る、②子どもの興味関心を生かす、③子どもの発言・意見を大事に扱う、④子ども自ら動き考える体験を重視する、⑤何の役に立つのか何ができるようになるのかを初めに示す、⑥一方的な指導の雰囲気無くす工夫を。主体として心を育てる保育・教育実践の質の向上をめざしましょう。

グループ協議

教師側はさせたい気持ちをもってしまいが、子どもの実態をとらえて、子どもを認め、自分からやってみたいと思えるようにしていくことが何よりも大事だと話し合った。



自信がない子への指導も、「寄り添う」というキーワードはわかるが、実際はなかなか難しい。

子どもの気持ちを思いつつも、こうしたほうが・・・と声をかけてしまうことも多かったのではないかと。子どもたちのやりたい思いを十分に引き出したい。それには、子どもたちが気づいたことを取り上げる先生の視点も大事と話し合った。

保育園から、0歳児でも人権を大事に「おむつ、替えるね。気持ちよくなるよ」と声をかけておむつを替えると聞いた。子どもの人権を大事にしたい。子どもは教師の思いを汲んで頑張ってしまう。頑張りすぎないように、子どもを丁寧に見ていきたい。



こどもみらい館研究プロジェクトでは、参観等によって互いの実践を知り合う、合同研修や検討会を通して互いの子どもの見方を知り、子ども理解を深める等の取組を通して、協力校・園・所の連携・接続を進めようとしています。心の育ちに着目して保育・教育実践の質の向上をめざし、幼保小の架け橋プログラムへつなげたいと考えます。

こどもみらい館 子どもたちの心の育ちをつなげる 第6期 研究プロジェクト 合言葉は「子どもを真ん中に大人同士がスクラムを!」

桃山東小学校・青風和泉幼稚園・桃嶺保育園

■令和7年5月29日(木) 京都市立桃山東小学校では、校区内の就学前施設である青風和泉幼稚園、桃嶺保育園に呼び掛け、顔を合わせて、共に学ぶ、「はじめの一步」を踏み出されました。京都市教育委員会学校指導課の架け橋コーディネーターにも御参加いただきました。

■「はじめの一步」は、顔合わせと合同研修会。「幼保小接続のはじめの一步～幼児期の学び・育ちを小学校の学び・育ちにつなげるために～」と題して、京都教育大学 准教授 佐川早季子先生にお話しいただきました。途中で、動画を視聴したり、小グループに分かれて「おしながき」に沿って話し合ったり・・・。
心に残る、今後へつながる大きな「一步」になったのではないのでしょうか。



参加者の声

○幼児期の学びの形というのは、これまで自分が考えていた以上に主体的で自由な学びであると感じました。この子どもたちの経験を生かした小学校での教育ができればいいと思いました。

○幼稚園、保育園でどのようなことをしているのかが分かった。小学校でもその学びを大切にして、子どもを育てて行きたいと思います。

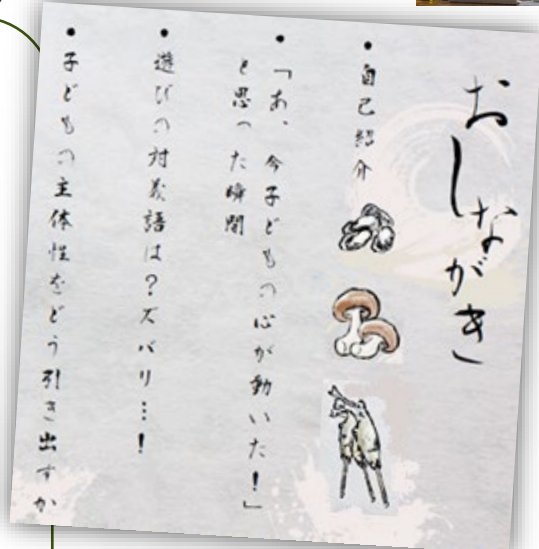
○「学校が子どもたちを迎え入れる準備・環境を考える」という言葉がずっと入りました。子どもたちの主体性を失わず、みんなで楽しむ、前に進むことができる場所になるよう、工夫をいろいろ考えていきたいと思います。

○子どもたちの心が動くような、授業や遊びをしていきたいなと思いました。「できる!」「できた!」を引き出せるような声掛けをしたいと思います。

○保幼小連携・接続の話を聞いて、幼児期の育ちや学びを生かした小学校教育の実施が必要不可欠だと学ぶことができました。

○今回お誘い頂きありがとうございました。小学校の先生と話をさせて頂けたこと、嬉しかったです。

○卒園した子どもたちが、気持ちが温かい先生方に囲まれて楽しく過ごしているんだろうと安心しました。保育士として初心に戻るような研修でした。



研修会の後も子どもの情報交換

第6期研究プロジェクトでは、協力校・園・所の関係者が、参観、合同研修、検討会等によって互いの実践や、子どもの見方を知り合い、子ども・教育・保育への理解を深めつつ、連携・接続を進める取組の在り方を探っています。顔見知りになることも大事な一步です。プロジェクトの取組は、今後、実践例として他の保幼小とも共有しようと考えています。研究プロジェクトでは、子どもを真ん中に、心の育ちに着目して保育・教育実践の質の向上をめざしていますが、さらに幼保小の架け橋プログラムへつながっていくことを願っています。

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ!



発行日 令和7年 8月 25日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>